

平成 2 1 年度

学校マネジメント支援に関する

調査研究事業報告書

平成 2 2 年 3 月

和 歌 山 県 教 育 委 員 会

はじめに

我が国では、近年の社会の急激な変化にともない、学校を取り巻く環境も大きく変化しています。このような中で、学校に対する多様で多大な期待と要望が高まってきました。そして、学校がそれらすべてを真摯にとらえ、解決しようとする中で、教員の多忙化が大きな課題となっています。

平成18年に文部科学省が「教員勤務実態調査」を行なった結果、公立学校における授業以外の様々な業務の増加により、教員が勤務時間内にすべての業務を処理することが大変困難な状況にあることが明らかになりました。

このような状況を改善するため、本県では、かつらぎ町と有田川町の2つの地域で学校マネジメント支援に関する調査研究を進めてきました。

かつらぎ町の取組は、学校評価で明らかになった各学校の課題を解決するために、その課題を重点化し優先順位をつけて組織的に対応するというものです。大谷小学校における「プロジェクト型校務分掌」の取組をモデルとして、これを町内の全小中学校へ広めようとしています。

有田川町の取組は、町教育委員会の施策を、教員の負担軽減という視点から整理し、各校の特色ある取組を支援していこうというものです。そのため、吉備中学校を中心に各学校の特色を前面に出しつつ、環境整備・研究授業の在り方の見直し・小学校における教科担任制・会議の在り方の見直し・地域との連携・外部人材の活用等を進めています。

教員が子どもと向き合う時間を確保するためには、学校としての課題を焦点化し、問題解決のために職員が力を合わせて取り組むことが必要です。さらにそれぞれの学校ごとに、職員の意識や規模、地域の事情などの条件は異なりますが、学校マネジメントの工夫も求められます。

本事業が、学校の多忙化の改善に少しでも役に立ち、学校が生き生きとし、子ども達が健やかに成長してくれることを期待します。

結びに、本事業を進めるにあたりご協力いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

平成22年3月

和歌山県教育庁学校教育局学校人事課
課 長 有 本 欽 治

目次

○はじめに

○「学校マネジメント支援に関する調査研究事業」概要	1
○「学校マネジメントの今後」	2
○勤務の負担軽減のポイント	3
○かつらぎ町教育委員会の取組	5
○有田川町教育委員会の取組	1 5

「学校マネジメント支援に関する調査研究事業」概要

1 趣 旨

グローバル化、情報化、少子化、高齢化など、我が国の社会が大きく変革する中で、学校を取り巻く環境も変化しており、学校教育に対する期待や学校教育が抱える課題が一層複雑化・多様化している。

これに伴い、教員を取り巻く環境も大きく変化しており、平成18年に行った「教員勤務実態調査」においては、公立学校には授業以外の様々な業務が増え、教員の負荷が増大しており、教員が勤務時間内ですべての業務を処理することが非常に困難な状況になっていることが明らかになっている。

また、精神疾患による病気休職者が増加しており、平成19年度には過去最高(4,995人、病気休職者のうち精神疾患によるものの割合は61.9%)となっている。

こうした状況に関し、平成20年7月に閣議決定された「教育振興基本計画」においては、学校事務の簡素化や共同実施などに取り組むことや、外部の専門家等の協力も得て保護者や地域の多様な要望により適切に対応することができるよう、学校の組織運営体制の改善に向けた各教育委員会・学校の取組を促すことなどが求められている。

以上を踏まえ、校長のリーダーシップの下、組織的な学校運営が行われ、教員が児童生徒に向き合う時間を確保するとともに、心身ともに健康な状態で児童生徒の指導にあたることができるよう、学校マネジメント支援に関する調査研究を行う。

2 事業のねらい

教職員の業務負担についての現状把握を行い、会議や調査等の精選、学校と教育委員会の情報の共有化の推進、校務分掌の適正化を図り、教職員が子どもたちと向き合う時間をより多く確保する。

3 研究協力地域・研究協力校

○かつらぎ町教育委員会

大谷小学校

○有田川町教育委員会

吉備中学校区(藤並小学校、田殿小学校、御霊小学校、吉備中学校)

4 経過

平成21年 7月15日(水) 第1回連絡協議会

10月 5日(月) 第2回連絡協議会

10月 9日(金) 和歌山市立紀之川中学校訪問

10月13日(火) 和歌山市立川永小学校訪問

10月21日(水) 有田川町教育委員会訪問

11月16日(月) 上富田町立朝来小学校、上富田中学校訪問

12月10日(木) 橋本市立三石小学校訪問

12月14日(月) かつらぎ町教頭・教務主任合同会議

12月18日(金) 第3回連絡協議会

12月21日(月) 市町村教育委員会指導・人事事務担当者等会議にて中間成果報告

平成22年 2月19日(金) 学校マネジメント支援推進協議会

学校マネジメントの今後

和歌山大学 教育学部 教授 岸田 正幸

ここ数年来の教員の発言には、パターン化された気になる傾向がある。学校改革や授業改善への方向性は、理念的には理解できるし、その必要性についてもわかるけれども、学校の慢性的な多忙化の中で、その実現は難しいというものである。確かに、平成18年度に行った「教員勤務実態調査」の報告を待つまでもなく、学校に対する多様な要求が増大する中で、かつての教員の勤務実態とは、相当かけ離れた状況にあることは容易に理解できるし、それが本来教員としての業務に不可欠な時間を奪っていることも事実であろう。

しかし、多忙化という現実とは、学校や教員に求められていることの実現がいかに困難であるかという1つの理由にはなるけれども、何もしなくてもよいということの根拠にはならない。要求の増大と多忙化の現実という相反する状況の中で、学校は、或いは教育委員会は、どこにその解決の糸口を見いだすのか、本調査研究事業に課せられたのは、そんなテーマであった。したがって、ここで言う「学校マネジメント」とは、いわゆる学校が組織体として経営感覚をもって取り組むべきとする「学校組織マネジメント」とは異なり、多忙化の解消も視野に入れながら、学校改革や改善との有機的なつながりをもたせようとする包括的学校マネジメントの視座である。

そこでまず、多忙化の要因について、教員意識や学校固有の文化も視野に入れながらいくつかの点を指摘しておきたい。

1. 学校の在り方に対する基本的な考え方の変化から生じる物理的な要因
(学校の自主性・自律性に基づく説明責任、学校評価、学校評議員など)
2. 学校を取り巻く環境の変化への対応から生じる渉外的な要因
(地域や保護者との連携、クレームへの対応など)
3. 児童生徒の育成に係る課題への対応から生じる流行的な要因
(学力向上、読解力の向上、読書指導など)
4. 教員間の業務量のアンバランスによる意識的な要因
(相互不干渉主義の学校文化の中での業務の遍在化と被害意識)
5. 学校業務の重点化の困難性による増幅的な要因
(前年度踏襲の学校文化の中で、慢性的に増幅されていく危険性)

これらは、いずれの学校も抱えている課題であり、教員組織の状況に応じて、時として管理職の小手先の対応によって、求められる業務をこなしてきた側面は否めない。学校評価の業務の多くを管理職が行っている状況が一部に見られるのは、その典型的な例である。

こうしたことを踏まえ、かつらぎ町の研究では、上記1から3にある学校に求められる改善の視点を推進しながら、4と5の要因を解消すべくプロジェクト型校務分掌による学校経営の活性化に取り組んだ。

また、有田川町の取組は、現行の教育委員会や学校の意欲的な取組を学校マネジメントの視点から再整理した時に、上記1～5の多忙化要因がどのような形で見えてくるのかといったいわばマネジメントの切り口による学校活性化施策の再評価研究である。

いずれの研究においても、協議会で議論する中で大切にしてきたことは、単なる多忙化解消のためのスリム化といったことではなく、学校運営の活性化とどう融合させていくかといったことであり、この取組そのものが業務増大につながらないようにしたいという配慮である。

多忙化と活性化といういわば二律背反の状況下で閉塞感を深める学校運営にとって、ここで研究テーマとした学校マネジメントの視点は、継続的な課題となっていくことは明らかであり、本報告書に示された研究が嚆矢となり、各学校においてこうした観点を重視した学校運営が行われていくことを期待するものである。

勤務の負担軽減のポイント

（研究協力地域の実践や聞き取り調査から見えてきたこと）

①仕事の全体量を減らす。

- ・行事の精選
（従来から何となく続いている行事、一部職員だけの負担になっている行事等を見直す）
- ・環境整備
（清掃徹底で快適な学習環境を作る。整理整頓を徹底し、ものを探す時間を削る）
- ・校務分掌の整理
（一部職員の過重負担になっていないか、校務分掌が機能しているかを見直す）
- ・会議や事務文書の削減
（ノー残業デー、ノー会議デーの設定や、文書様式簡素化などスリム化を意識する）

②教職員の力量 UP

- ・ On the Job Training の発想
（職員が前向きに創意工夫できる職場環境を作る）
- ・授業力向上
（授業研究形態を工夫し、授業交流を積極的に行う）
- ・児童生徒理解力の向上
（共に活動し進んで関わり、先手の生徒指導を行う）
- ・事務処理能力の向上
（ICT を活用し、情報の共有化を進める）

③組織マネジメント

○課題の共通認識

- ・学校評価等から明確になった課題の共通認識を大切にする。

○教職員の自覚

- ・学校運営への参画意識を醸成する。
- ・教職員の創意工夫を引き出す。
- ・ミドルリーダーを育成する。

○具体的な手立て

- ・縦のつながり、横のつながりを意識的に取り入れる。
（例．小学校における教科担任制、縦割り活動の導入等）
- ・地域との連携
（例．地域の教育力を取り入れ、学校を活性化する）
- ・研究指定
（例．研究指定を活用し、教職員の力を高める）

かつらぎ町教育委員会の取組

学校の課題を解決することに重点をおいた 校務分掌の組織・運営による学校経営の活性化

かつらぎ町教育委員会

1 テーマについて

学校評価で明らかになる課題は、「生徒指導上の問題」「学力の問題」「体力の問題」等、教員一人ひとりの取り組みにより解決できるものではなく、教員が一丸となり、学校がチームとしての機能を発揮しなければ解決できないものばかりである。

各学校は、それぞれの課題を解決するために課題を重点化し優先順位をつけて組織的に対応することが必要である。組織的に対応するためには、校務分掌のあり方が重要となる。

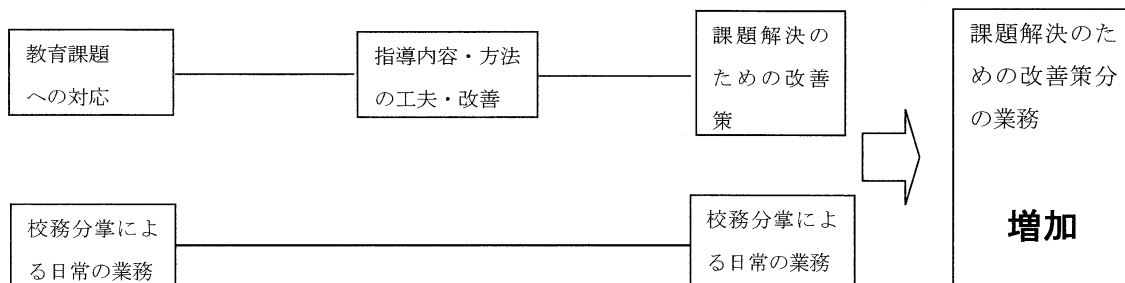
そこで、各学校の教員が、チームとして、組織として機能する校務分掌組織とその運営方法について検討し、学校経営の活性化を図るため本テーマを設定した。

2 研究の目的

学校の課題を解決することに重点をおいた校務分掌を組織・運営し、学校経営を活性化させることにより、教師が児童生徒と向き合う時間を確保するとともに心身ともに健康な状態で児童生徒の指導にあたり、児童生徒により質の高い教育を提供する。

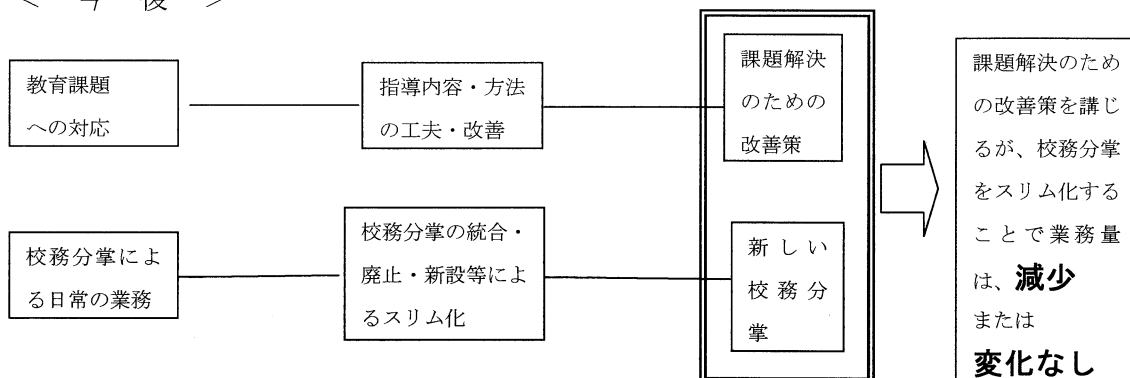
3 研究の方向

< 従 来 >



- 校務の統合・廃止・新設等の工夫をせずに、教育課題に対する改善策を講じ実践すれば教員の業務量が増え、業務時間も増大する。〔目的達成が難しい〕

< 今 後 >



プロジェクト型校務分掌

- 教育課題に対する改善策を講じ実践したとしても、校務を統合・廃止・新設するなどの工夫をすれば業務量等は大きく増加しない。〔目的達成が可能〕

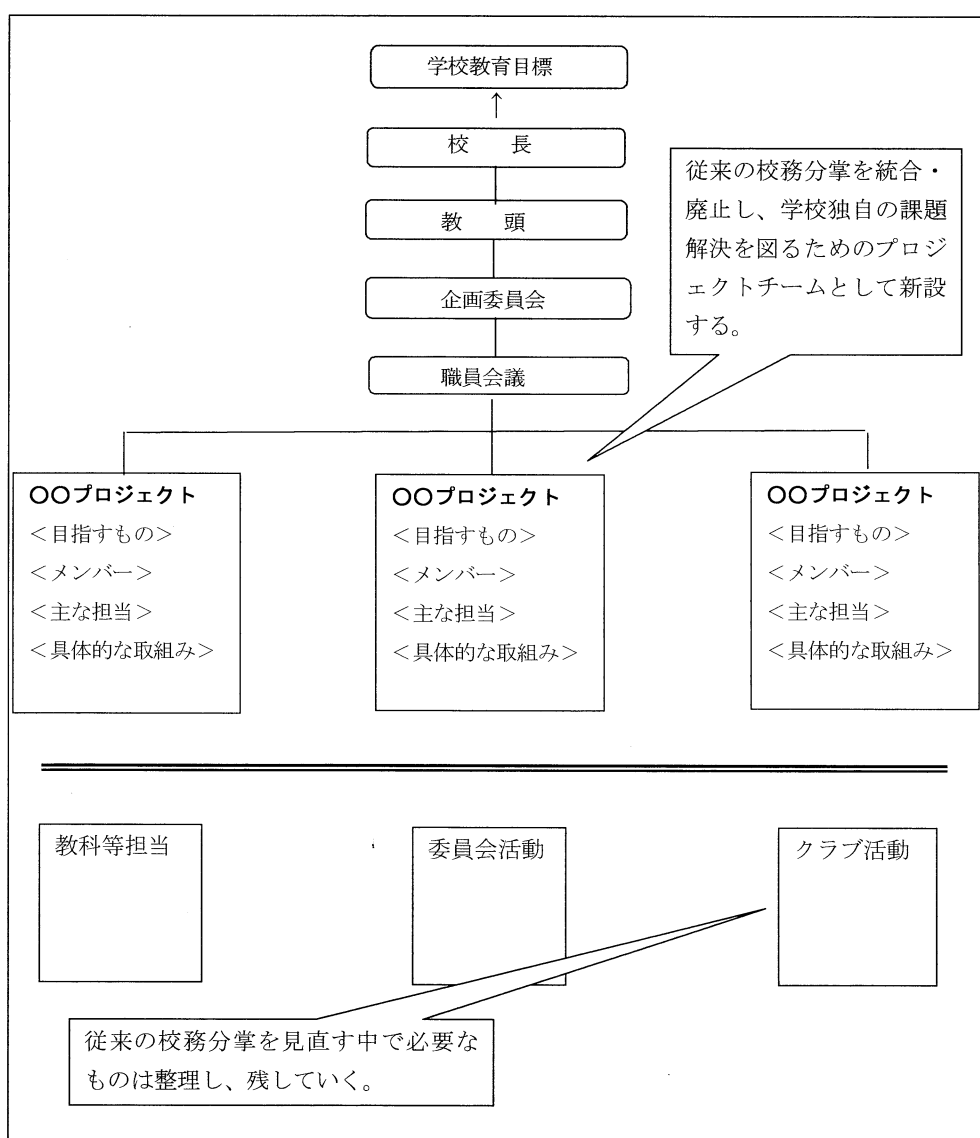
4 校務分掌見直しの視点

- ① 教育目標達成を意識した校務分掌になっているか。
- ② 学校としての課題が重点化され、それが校務分掌組織に反映されているか。
- ③ 教員一人ひとりの責任が明確になっているか。
- ④ 校務の統合・廃止・新設が検討されているか。
- ⑤ 教員一人ひとりが個々の力を出し合い、チームとして機能しているか。
- ⑥ 教職員個々の力量や年齢差からくる経験が校務分掌組織の中にうまく取り入れられているか。
- ⑦ 校務の内容が明確化されているか。
- ⑧ 指示・報告がスムーズに行われる体制になっているか。

5 目指す校務分掌組織

管理型校務分掌から学校の課題に対応した学校独自のプロジェクトにもとづいた校務分掌を組織し、運営することで学校経営を活性化させる。

【プロジェクト型校務分掌組織】

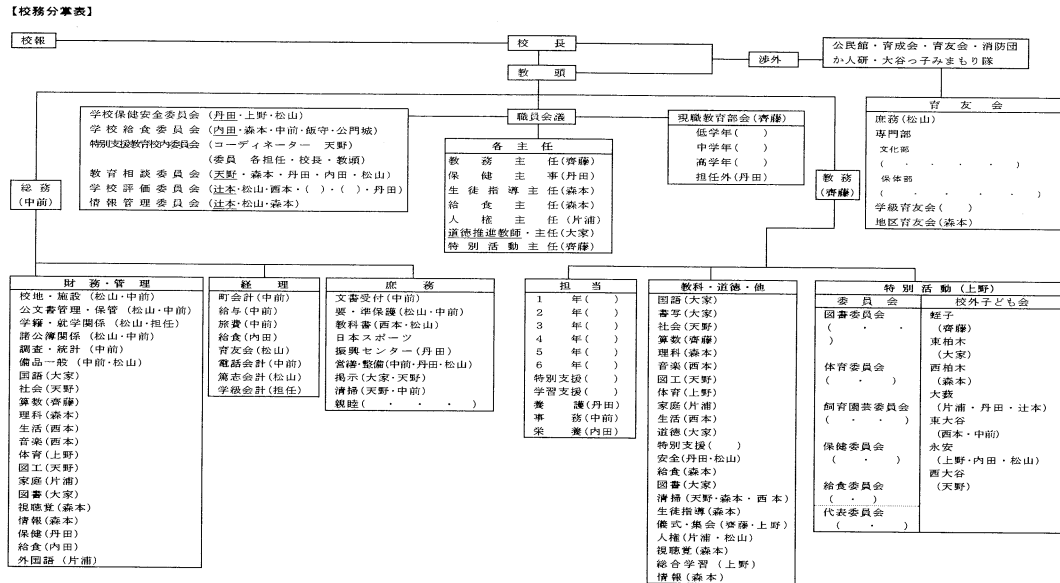


6 実践事例（かつらぎ町立大谷小学校）

（１）平成21年度前期

管理型・プロジェクト型校務分掌を併用して運営

①管理型校務分掌



②プロジェクト型校務分掌

《 校務分掌 組織図 》

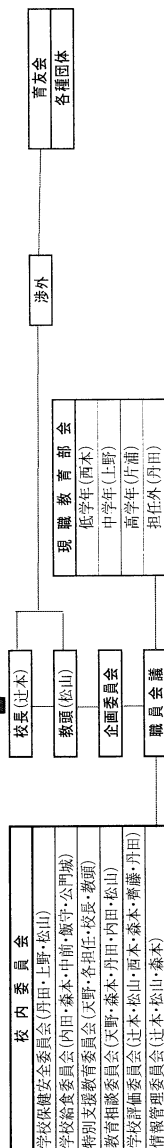
	「豊かな人間性」育成	「確かな学力」育成	「健康・安全」育成	「市民性」育成	「学校運営」
リーダー	天野	齊藤	上野・丹田	西本・松山	松山
低学年	西本・大谷	西本・大谷	西本・大谷	西本・大谷	西本・大谷
中学年	上野・森本	上野・森本	上野・森本	上野・森本	上野・森本
高学年	片浦・齊藤・天野	片浦・齊藤・天野	片浦・齊藤・天野	片浦・齊藤・天野	片浦・齊藤・天野
主に関係する主任	・特別支援教育・道徳教育・人権教育・生徒指導	・研究・各教科・図書・視聴覚・総合的な学習の時間・英語	・体育・保健主事・養護教諭・給食	・特別活動・社会教育(町指定)・総合的な学習の時間	・教務・事務・庶務・学校評価

分掌内容	起案者	分掌内容	起案者	分掌内容	起案者	分掌内容	起案者	分掌内容	起案者	担当者
特別支援教育計画	天野	低学年研究部会	大谷	保健・性教育計画	丹田	特別活動年間計画	齊藤	施設設備管理・当番	齊藤	松山
道徳教育計画	大谷	中学年研究部会	上野	食育年間計画	内田	委員会活動計画	齊藤	廃棄物処理	齊藤	大原
人権教育計画	片浦	高学年研究部会	齊藤	検査日誌	内田	校外子ども会計画	齊藤	就学援助事務	齊藤	松山
生徒指導計画	森本	特別支援教育支援	磯部	食育教育の取組	内田	学級活動指導計画	齊藤	基本調査・児童数調査	齊藤	松山
活動計画(縦割り班)	天野	図書整備	大谷	安全・防災指導計画	松山	集会計画	齊藤	渉外・有友会事務	齊藤	松山
校内掲示	大谷	英語(ALT)計画	片浦	施設・設備点検計画	丹田	大谷つ子フェスティバル	西本	職員会議録・文書管理	齊藤	松山
情報教育計画	森本	英語教育計画	片浦	避難訓練計画	松山	「総・学」学年計画	上野	庶務一般・県費・町費	上野	中前
発達・教育相談窓口	天野	総・学のカリキュラム	上野	学校安全計画	松山	福祉ボランティア活動計画	上野	出勤簿・旅行命令簿管理	上野	中前
悩み相談窓口	天野	授業時間数点検	齊藤	スポーツテスト	上野	ケアハウス訪問計画	大谷	共済・互助事務	大谷	中前
健康相談窓口	丹田	現職教育計画	齊藤	遠足関係	松山	通学合宿窓口	松山	行事連絡調整・承認	松山	松山
環境ボランティア活動計画	上野	家庭学習定着計画	齊藤	水泳指導計画	上野	児童作品関係	天野	時間割・日課表	松山	松山
道徳教育推進教師	大谷	学期のまとめ	齊藤	みまもり隊等との連携	松山	地域ボランティア人材	松山	教材・理振帳簿管理	松山	中前
		国学力テスト調査分析	齊藤	交通街頭指導計画	松山	ふれあい・昔のくらし計画	松山	学校関係者協議委員会	辻本	辻本
				通学路安全点検	松山	読み聞かせ会計画	松山	学校評価項目検討	辻本	辻本
				危機管理マニュアル点検	松山	キャリア教育計画	西本・松山	学校評価集計・分析	辻本	辻本
				運動会関係	上野	「市民性を育てる教育」計画	西本・松山	調査統計・出席簿	松山	松山
				マラソン大会	上野	豊かな体験計画	片浦・松山	転出入・除籍・在学卒業証明	松山	松山
				遊具等点検	上野			修了卒業台帳	松山	松山
				体育用具施設管理	上野			教科書・指導書関係	西本	西本
				掃除道具整備	天野			職員人事関係	辻本	辻本
				日本スポーツ振興センター関係	丹田					

本年度重点事項	思いやりのある心豊かな子の育成	自ら学び、よく考える子の育成	健康でたくましい子の育成	見通しを立て行動し、協力・助け合える子の育成	効果的・効率的学校運営の確立
	・挨拶がとびかう学校 ・仲良く楽しい学校 ・落ち着いたきれいな学校 ・地域と共に歩む学校	・「わかる授業」の授業の工夫 ・発表の仕方の工夫 ・家庭学習習慣の定着	・早寝・早起き・朝ご飯の徹底 ・体力向上に向けての工夫 ・安心・安全な環境作り	・県指定「市民性を育てる教育」の推進 ・ボランティア協力校としての実践 ・地域の施設・人との交流 ・児童会・縦割り班活動の充実	・学校・家庭・地域の連携強化 ・学校評価から信頼される学校づくり ・職員の参画意識の高揚

5プロジェクトにもとづいた校務分掌に統合・整理

《校園組織變遷》

[illegible]

国語(大家) 書写(上野) 算数(薄藤) 理科(森本) 音楽(西本) 図工(天野) 体育(上野) 家庭(片浦) 生活(西本) 道徳(大家) 特別支援(天野) 安全(丹田・松山) 給食(森本) 図書(大家) 清掃(天野・森本・西本) 式・集会(薄藤) 人権(片浦・松山) 視覚教育(森本) 総合学習(上野) 情報(森本) 外国語(天野) 生活(森本)	特別活動 委員会 図書(大家・天野) 体育(上野・松山) 給食(内田・森本) 代表(薄藤・片浦) 防災・減災(西本) 足跡(風呂田・片浦) 正午(上野・内田・松山) 両文谷(天野) 大蔵(片浦・丹田・松山) 西又谷(天野) 郷土(薄藤) 東柏木(大家) 西柏木(森本) 校外子ども会
---	--

(3) 平成22年度

学校の課題を3プロジェクトに絞込み、校務分掌として統合・整理

《校務分掌組織図》

教育目標：「生きる力」にあふれる子どもの育成

平成22年度 大谷小



○勤務状況に対するアンケート集計結果 職員数 12 名

質問項目に対して該当する記号に○をつけてください。その他の場合は（ ）に意見を書いてください。

問 1 皆さんの毎日の勤務状況で

- A 大変忙しいと感じている (7) B まあ忙しいと感じている (2)
C こんなものだと思っている (3)
D ()

問 2 問 1 で A,B と答えた方に、忙しいと感じている仕事の内容は (複数可)

- A 学級経営に関することで (8) B 児童の生徒指導に関することで (3)
C 児童のプリントの答合わせで (2) D 学級通信の作成で (1)
E 保護者の対応で F 校務分掌の担当で (1)
G 教材研究で (5) H 会議・打ち合わせで (1)
I 事務・報告書作成で (5) J 指定を受けていることで (1)
K 学力補充で (2)
その他 ()

問 3 忙しい中でも児童と向き合う時間を確保するには、何を改善すべきだと思いますか。

- A 行事等の見直し (8) B 校務分掌の見直し (3)
C 役割分担・責任を明確化する (2) D 会議等の能率化 (2)
その他 (第 2 通知表に関して (3) 百マス計算に関して (2))

○校務分掌に対するアンケート集計結果

質問項目に対して回答 A,B,C に○をつけてください。その他の場合は D に意見を書いてください。

番号	項 目	回 答
1	教育計画作成に当たり、どちらの校務分掌表で自分の担当を確認しましたか。	A 従来の樹形図型の方で確認。(3) B プロジェクト型の方で確認。 C どちらも見て確認。(9) D ()
2	従来の樹形図型とプロジェクト型の校務分掌を比べて担当(責任)者がわかりやすいのはどちらですか。	A 樹形図型の方がわかりやすい。(3) B プロジェクト型の方がわかりやすい。(2) C どちらも変わらない。(6) D (どちらも利点がある、併用がわかりやすい)
3	プロジェクト型には、具体的項目別に担当者が記入されていますが役に立ちましたか。	A 役に立った。(4) B どちらとも言えない。(8) C 参考にしなかった。 D (樹形図でだいたいの担当がわかる)
4	プロジェクト型は、担当責任者を明確にし、その人が教育計画・行事等の企画・計画をし、少人数で確認後、事前に資料を配付されます。そして、職員会議で確認しています。これは、同じ内容で職員会議を繰り返さなくてもいいように時間的な能率を図るために取り入れましたが、どう思いますか。	A 今までと変わらない。(3) B 少しは会議の能率が良くなった。(9) C 子どものために使う時間が増えた。 D ()

《校長として、職員の意識改革をしたいと感じていること》

1 職員の多忙さからくる多忙感を少なくする意識改革

- 管理職等、誰かに指示され行動する感覚でなく、自分が主体となり、自分で方向を見出すという意識をもち取り組むことで達成感が味わえ、忙しかったがやって良かったと感じる。
- 学校運営において校務分掌の担当者（プロジェクトリーダー）と打ち合わせをするすることは、目的や方法を確認でき、マンネリ化だけでなく責任者として行動しなければという意識を持たせる。
- 子ども・保護者から信頼されることは自信につながるため、教師力を高める校内研修を行う。
- 学校が好き、子どもが好き、学校が楽しいと感じる人は、多忙になっても多忙感は薄らぐ。

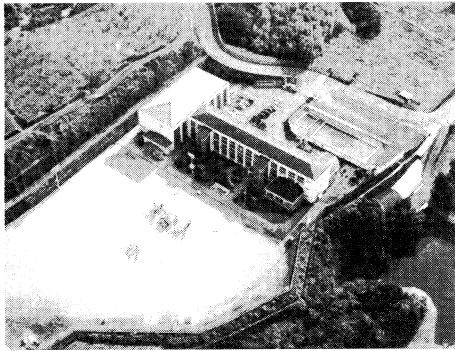
2 児童と向き合う時間の確保（会議の時間を短くする工夫）

（気になる子ども、悩んでいる子ども、困っている子ども、学力の補充と積極的に子どもとふれあい向き合ってもらいたい。）

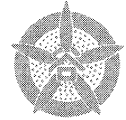
- 一つ一つ議論を重ねるのをやめ、確認事項について精選する。（職員会議の効率化）
- 職員が協力する多様な業務は、担当者を決め分担する。（一人の荷重にならないように）
- 処理する担当責任者を校務分掌で明確にする。（プロジェクトリーダーの位置づけ）

3 校長は聞き上手になり、職員、特にミドルリーダーを育成し、学校運営に参画意識をもたせたい。

- ①批判的・忠告的な態度をやめ、ありのまま受け入れる。
- ②相手の意見や考え方を尊重する。
- ③話しやすい環境を作る。
- ④自分の判断を加えない。
- ⑤相手の話を最後まで聞く。
- ⑥感情を抑え、先入観をもたず聴いている姿を相手に伝える。
- ⑦言葉以外の表現、表情やしぐさで聴いていることを伝える。



かつらぎ町立 大谷小学校



創立134年 開校記念日4月9日

住所：かつらぎ町大谷338

TEL：0736-22-0132

FAX：0736-22-1473

<http://www.katsuragicho-wky.ed.jp/ootani/htm/>

学校教育目標 『「生きる力」にあふれる子どもの育成』

教育方針 「一人ひとりを生かし、大切にする」

【めざす子ども像】

- ☆思いやりのある心豊かな子
- ☆自ら学び、よく考える子
- ☆健康で、たくましい子
- ☆人のために、よく働く子

【めざす学校像】

- ☆あいさつがとびかう学校
- ☆みんな仲良く楽しい学校
- ☆落ち着いたきれいな学校
- ☆地域と共に歩む開かれた学校

【めざす教師像】

- ◇元気：心身ともに健康で笑顔で
- ◇根気：実践の積み重ねで改善を図る
- ◇本気：自分自身の課題と考え全力で取り組む
- ◇勇氣：改革を図る勇氣
- ◇覇気：誰にもどこにも負けない意欲

1. 沿革

明治 9年	大明・擴智小学校創立	明治31年	大谷・柏木尋常小学校
大正 5年	大谷尋常小学校（合併）	昭和16年	大谷国民学校
昭和22年	大谷小学校	昭和24年	学校給食開始
昭和55年	「保健体育指導研究」文部大臣賞	平成 3年	新校舎竣工
平成 4年	学校給食 文部大臣賞	平成13年	学校評議員制度導入
平成14年	二学期制採用 文部科学省研究指定「学校評価のシステム研究」		
平成17年	文部科学省研究指定「学力向上拠点形成事業」		
平成21年	県・町研究指定「市民性を育てる教育」ランドマーク事業		

2. 児童数（85名）

1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級
5	21	16	18	9	15	1

3. 教職員数（16名）

校長・教頭・教諭・非常勤講師・養護教諭・事務職員・栄養士・校務員・調理員

大谷小学校教育プラン

平成21年度

教育目標：「生きる力」にあふれる子どもの育成

【めざす学校像】

- ☆ あいさつがとびかう学校
- ☆ みんな仲良く楽しい学校
- ☆ 落ち着いたきれいな学校
- ☆ 地域と共に歩む開かれた学校

【めざす子ども像】

☆ 思いやりのあ
る心豊かな子

自ら学び、
よく考える子

健康で
たくましい子

☆ 人のために、
よく働く子

【めざす教師像】

- ◇ 元氣：心身ともに健康で笑顔で
- ◇ 根氣：実践の積み重ねで改善を図る
- ◇ 本氣：自分自身の課題と考え全力で取り組み
- ◇ 重氣：改革を図る勇気
- ◇ 覇氣：誰にもどこにも負けない意欲

指導方針：一人ひとりを生かし、大切にす

本 年 度 大 谷 小 学 校 教 育 の 重 点 ・ 努 力 目 標

豊かな人間性		確かな学力		健康・体力	信頼される学校づくり
◎ 自らを律する、他人と協調する、他人をおもいやる、感動する心など豊かな人間性・市民性を育てる		◎ 知識や技能に加え、学ぶ意欲・課題発見能力・表現力・判断力・思考力・問題解決能力・学びたいの心を育てる		◎ 健康でたくましく生きるための心と体を育てる	◎ 地域住民・児童・保護者から信頼される魅力ある学校づくり
道徳・市民性教育	特別活動等	教科学習	生活・総合的な学習	保健体育・食育・安全	説明責任と学校改善
	◇ 心の教育を充実させ、おもいやり、我慢強さなど豊かな心を培う	◇ 基礎・基本の確実な習得をまいる人間関係を構築する	◇ 読書意欲を喚起し読書の楽しさを身に付けさせる	◇ 健康に必要な基礎的な知識と基本的な生活習慣を身に付けさせる	◇ 学校運営について情報発信し、説明責任をはたす
	◇ 自然や人々とのふれあいを深める	◇ 一人ひとりに応じたきめ細かな指導に努める	◇ 読み・書き・計算力の確立と集中力・学習意欲等の向上をめざす	◇ 体力・運動能力の向上をめざす	◇ 魅力と特色ある校風・伝統づくりに努める
	◇ 各教科等の指導を通して道徳性・市民性を育む	◇ 意欲を喚起する授業・思考力を高める授業を創造する	◇ 問題解決能力と学び方等の育成をめざす	◇ 安全への意識を高めるとともに環境整備に努める	◇ 学校評価システムの充実と改善
		◇ 活動や体験を通して道徳的・心構えや実践力を培う	◇ 体系的・問題解決的な活用できる学習を充実させる	◇ 自ら学ぶ意欲・自ら考える力を育てる授業の創造	◇ 常に、成果と課題を明確にし、学校運営の改善に努める
○縦割り班活動の充実 (給食・清掃・児童会活動・大谷子フェスティバル・委員会活動など異年齢活動)		○読書指導の充実 ○朝の学習：百マス計算(月、水、金)暗唱・音読(火、木)の充実		○生活リズムの確立・学習習慣の定着における家庭との連携及び啓発	
○全体計画・年間指導計画の樹立と実践と改善		○図書室の有効活用		○学校学級目標・計画の樹立	
○道徳の時間の指導の充実		○図書文庫の充実と活用		○方針・計画・結果の地域・保護者への説明	
○副読本・心のノートの有効活用		○朝の学習の時間の活用		○学校・学年・保健・給食・便り等の発行	
○家庭・地域との連携(授業の公開・便りの活用)		○授業時間の活用		○施設開放や学校開放日の設定	
		○放課後の活用		○スクールボランティアの充実と交流	
		○読み聞かせ会の充実		○外部評価委員による学校評価の実施	
		○家庭学習内容の工夫		○地区・個人懇談会の実施	
		○チャレンジタイム・チャレンジデーの充実と活用		○学校評価の実施、結果公表と改善	

学校経営計画

平成21年度 かつらぎ町立 大谷小学校

年度末の学校評価分析結果より

【児童の評価】

- ・自分の意見を発表できる。(82.0%)
- ・家の人に学校のことをよく話す。(80.9%)

【保護者の評価】

- ・子どもは学校のことをよく話す。(77.7%)

学校教育目標：「生きる力」にあふれる子どもの育成
研究主題：人や社会とのつながりの中で活躍できる子どもの育成をめざして
(市民性を育てる教育の推進)

教育指導方針：一人ひとりを生かし大切にする

児童の実態

元気で明るく、あいさつができる。
保護者の願い
毎日元気に学校生活を送って欲しい。
地域の実態
学校教育・学校行事に協力的。

【めざす学校像】

- あいさつがとびかう学校
- みんな仲良く楽しい学校
- 落ち着いたきれいな学校
- 地域と共に歩む開かれた学校

【めざす子ども像】

- 思いやりのある心豊かな子
- 自ら学び、よく考える子
- 健康でたくましい子
- 人のためによく働く子

【めざす教師像：五気】

元気：心身ともに健康で笑顔で
根気：実践の積み重ねで改善を図る
本気：自身の課題と考え取り組む
勇気：改善を図る勇気
霸気：誰にもどこにも負けない意欲

区分	中期目標	本年度重点目標	具体的方策	取組状況	達成状況 (A：できた、B：おおむね、C：できなかった)
豊かな人間性	○道徳教育の充実	◇思いやり・我慢強さなど豊かな心を培う ◇各教科等、教育活動の指導を通して市民性を育てる	・道徳教育の指導は、教材を有効活用し、心に訴える授業を展開する ・各学年1回「市民性を育てる教育」の研究授業を提供する	・時間数確保 ・教材の工夫 ・研究授業提供 ・現職教育の時間確保	・計画通り時間数を確保できたか() ・教材に工夫したか() ・協働で一人1回の研究授業ができたか() ・現職教育の時間は十分であったか()
	○特別活動の充実	◇教師と児童、児童相互、学校と地域住民の望ましい人間関係を構築する ◇活動や体験を通して規範意識の高揚や実践力を培う	・学級経営計画、学級目標の作成 ・学級会活動の充実 ・縦割り班活動の充実 ・挨拶運動の実施 ・ボランティア活動などの体験的活動の実施(町ボランティア協力校指定) ・地域とのふれあい活動の実施 ・大谷っ子フェスティバルを成功させる	・児童会活動の計画 ・縦割り反活動の充実 ・町ボランティア協力校としての実践 ・学年にあった体験学習の充実 ・大谷っ子フェスティバル実施までの計画	・計画の時間がとれたか() ・活動が充実できたか() ・町ボランティア協力校として活動に協力できたか() ・児童に規範意識が高まってきたか() ・フェスティバルは成功できたか()
確かな学力	○授業の工夫・改善	◇基礎・基本の確実な習得をめざす ◇思考力を高め問題解決に活用できる授業を創造する	・繰り返し学習の重視、教材の工夫と指導の充実 ・根拠に基づいた発表の仕方に工夫 ・国の学力状況調査の結果分析から課題さがし	・わかる授業の工夫と実践 ・反復練習できる資料の工夫と補充 ・学年にあった授業での発表の仕方	・習得できる授業が提供できたか() ・授業の教材に工夫できたか() ・児童の発表の仕方に工夫したか() ・補充学習を行ったか()
	○一人ひとりに応じたきめ細かな指導	◇特別支援教育の校内組織を確立させ、全職員で意識を共有する	・特別支援が必要な児童の把握 ・授業における一人ひとりを大切に支援的指導 ・朝の学習の時間の充実(音読・暗唱・百マス計算)	・現職教育の充実 ・児童評価結果の分析 ・学習支援授業形態の工夫 ・朝の学習時間の有効活用	・支援が必要な児童を把握しているか() ・一人ひとりに合った指導ができたか() ・学習支援員と連携できたか() ・朝の学習時間は充実できたか()
	○家庭学習習慣の定着	◇家庭学習内容の工夫と充実を図る	・国語・算数の到達度通知表の充実 ・家庭学習習慣の啓発と資料提供	・児童一人ひとりの到達度の把握 ・便り・通信の積極的な発信と啓発	・一人ひとりの到達度を把握しているか() ・家庭学習習慣定着のための情報発信ができたか()
	○生活・総合的な学習の時間の充実	◇体験や活動を通して、知的な気付きの育成を目指す ◇問題解決能力と学び方等の育成を図る	・豊かな体験活動の重視 ・地域施設・人材等の活用 ・環境・福祉教育の充実 ・コンピュータの活用	・系統的な総合的な学習の時間の計画と見直し ・学年別体験学習の取組 ・地域ボランティアの活用 ・町ボランティア指定校としての活動する役割分担	・学年にあった体験学習ができたか() ・地域施設・人材を活用したか() ・町ボランティア行事に参加できたか() ・パソコン利用できたか()
健康・体力	○健康でたくましく生きるための心と体の育成	◇基本的な生活習慣を身につけさせる ◇体力・運動能力の向上を図る ◇安全への意識高揚に努める	・保健・給食・食育教育の充実 ・体育活動の充実と環境の点検・整備 ・水泳・陸上の特別練習と大会への参加 ・チャレンジランキングへの挑戦 ・交通教室・防犯・避難訓練の実施 ・地域のみまもり隊等との連携 ・集団登下校の実施と安全マップの確認	・保健、給食、食育に関する情報発信 ・施設設備の定期点検(3回) ・記録会への積極的な参加 ・体力向上に向けての積極的な取り組みの推進 ・登下校の安全確保	・基本的生活習慣が定着する指導ができたか() ・年3回の設備点検ができたか() ・チャレンジランキングに挑戦できたか() ・学年にあった体力向上に向けて取り組みができたか() ・児童の安全確保に協力できたか()
	○地域住民・児童・保護者から信頼される学校づくり	◇特色ある校風・伝統づくりに努める ◇学校運営について情報を発信し、説明責任を果たす	・地域及び地域関係団体との連携 ・学校施設開放や学校開放日の設定 ・スクールボランティアとの交流 ・地域の人・物の教材化 ・大谷っ子フェスティバルの取り組み ・自己評価(職員・児童・保護者)及び学校関係者評価の実施 ・学校教育目標・計画の説明とPR ・学校便りの発行・ホームページの充実 ・個人懇談会・地区懇談会の実施	・地域へ学校教育の説明・開示 ・地域住民協力による学年別体験学習の工夫 ・学校・学級便りでの学校の実践紹介 ・学校評価の分析と課題さがし	・通信等積極的に発信できたか() ・地域住民を招待できる行事になっていたか() ・地域住民・施設を教材に利用できたか() ・自己評価での課題を把握して実践できたか() ・学校の説明責任が果たせたか()

有田川町教育委員会の取組

1 テーマ

教職員が子どもと元気に向き合うために

・・・「教育委員会ができること」と「学校ができること」・・・

現在、様々な調査結果から教職員の多忙化が問題となっている。本町においても程度の差はあるが、教職員が多忙感をもっていることは事実である。また、指導や事務といったソフト面だけでなく、校舎や教室、職員室、ICTなどハード面においても快適に仕事をするためには、改善すべき多くの課題がある。

そこで、今回は「教育委員会ができること」と「学校ができること」という視点から事務処理や会議、情報、環境について検討し、「教職員が子どもと元気に向き合うために」というテーマのもと積極的な施策を実施していきたいと考え本研究に取り組んだ。

2 研究目標

教職員が、子どもと向き合う時間をより多くし、生き生きとした学校づくりを推進する。

3 研究内容

(1)「教育委員会ができること」

教育委員会は、指導や研修、評価、人事、備品、給食、保健など様々な面から依頼や調査を実施している。また、各担当は、訪問や会議、連絡、照会など指示や要求を大量に発出し、学校の対応を要求している。更に、予算や議会对応のためなど緊急な対応を迫るものもあり、学校の多忙感を増進しているものと思われる。

逆にハード面では、消耗品や備品の購入などの予算、施設の修繕改築、環境の改善など学校の要求に迅速に対応できないことが多く、教職員の不満感を募らせていると思われる。

そこで、ソフト面では事務関係の実態を正確に把握し、「効率化」「共有」をキーワードに取り組んでた。また、事務局職員の職務への取り組み方についても検討し、学校の負担軽減につながる働き方について検討した。

ハード面では、教職員の意見や意向を具体的に把握し、「改善」「実現」をキーワードに町当局に働きかけ、可能性を拡大していった。

(2)「学校ができること」

学校は、子どもという生きた人間を相手に教育をするところである。また、保護者や地域の人々など、様々な人の生の声を聞きながら対応するところである。学習指導や生徒指導は、事務的に処理できるものではなく、子どもの状況や状態に合わせ、柔軟に対応しなければならないものである。したがって、学習の方針や計画どおりに進まないのが前提条件としてとらえなければならない。また、きめ細かな指導や個に応じた対応をすればすれほど時間が多くいるということも基本となる。

つまり、教職員は、「時間を生み出す人」でなければならないということである。研究や研修、事務処理、会議など精選しない限り、増えることはあっても減ることはなく、意味のない多忙状態となる可能性が高い。

そこで、学校長を中心として現実把握を徹底し、「意味」「必要」をキーワードに学

校の運営を振り返り、教育目標の達成や課題解決のための学校運営となっているかチェックしてきた。

また、ハード面では、「我が家」をキーワードに教職員が常に施設環境に対する意識をもち、自ら改善できる部分は取り組み、よりよい環境づくりのために意見やアイデアをもてるように取り組んできた。

4 研究の視点・キーワード

(1) 教育委員会

①ソフト面「効率化」「共有」

- ・調査、照会、提出書類・・・・・・・・見直し、簡素化、廃止
- ・研究、研修、会議、行事・・・・・・・・見直し、統合、廃止
- ・外部人材等の活用・・・・・・・・サポート

②ハード面「改善」「実現」

- ・予算・・・・・・・・ニーズ、充実、柔軟性
- ・施設・・・・・・・・修繕、改築、改善

(2) 学校

①ソフト面「意味」「必要」

- ・校務、業務・・・・・・・・見直し、簡素化、廃止
- ・事務処理・・・・・・・・見直し、簡素化、効率化
- ・研修、会議、研究・・・・・・・・見直し、精選、効率化
- ・学校行事・・・・・・・・見直し、統合、廃止

②ハード面「我が家」

- ・予算・・・・・・・・見直し、充実、柔軟性
- ・環境・・・・・・・・修繕、改善

5 成果と課題

本年度は、教育委員会と学校がそれぞれにできることを見つけることから研究をスタートさせた。また、現状を正確に把握することや形骸化したままになっていることなどに着目することに重点を置き、学校長や教職員、教育委員会事務局職員の問題意識を高めることから取り組み始めた。

その中で、全体として日常の様々な業務に取り組んでいるため、多忙感はそれぞれに高く、これ以上調査や研究は無理であるとの心理状態となっていることが窺えた。また、忙しさに追われている状態で、仕事に対する姿勢がどうしても受け身になってる傾向が強いと感じられた。したがって、目の前の課題を何とかすることエネルギーがいるためなかなか改善や改良に至らないと考えられる。

その結果、教職員の負担軽減のためには、以下のようなことが今後の課題であると考えている。

- ・教育委員会は、事務や予算について、ユーザーとしての学校のニーズに合った内容で取り組めているのか。素早い対応ができてしているのか。
- ・学校は、問題意識を持ち校長を中心として具体的に取り組んでいるのか。PLAN・DOばかりでCHECK・ACTIONに取り組んでいるのか。
- ・受け身ではなく「攻め」の姿勢の仕事になっているのか。

来年度からは、以上のようなことをふまえ学校マネジメントの研究に本格的に取り組んでいきたいと考えている。

学校マネジメント事例 1



教育委員会

データを共有し事務の効率化

1 趣旨

事務の効率化や軽減を図るためには、各種調査や照会を削減したり見直す必要がある。特に、調査や照会は、相手の時間や計画を変更させるものであり、慎重にしなければならないと考える。また、教育委員会内においても各担当ごとに仕事をするために情報が共有されずに、学校に対し同じ質問や調査をする場合があると思う。そこで、まず教育委員会内の情報の処理の仕方について検討することとした。

2 データ集約

有田川町では、現在小学校16校中学校6校計22校の学校がある。大規模校から小規模校まで様々な状況の学校があり、地域も東西に広く情報を如何に伝達し合うかが大きな課題である。下記の事例1表は、教育委員会で共有している表である。教職員にかかる定数等の調査表にデータを入力し、教育委員会の職員が共有し学校への問い合わせを減らすようにしている。

3 効果

教育委員会へも各方面から問い合わせは多い。それを受けてその都度学校へ問い合わせることもあるが、町民や他課、議会などが必要としている情報は予想されるものも多いので、毎年教育委員会で共有しておけば効率化を図れる部分が多い。

事例1表

学校番号	学校名	学級数										教員数(定数内)														合計	欠員	備考
		標準学級			特認	独	合	校	教	教諭等	改善定数	少人数学級	一般等	事務局等勤務者	在	大学院	一般研修	社会体験	海外派遣	計	初任者研修	充て指						
		普通	多	一																								
		〒643-0032 天満439-1 52-2069 FAX52-4491										拠点校指導員 藤並小 田殿小(金) 御堂小(火)																
1	643800	創立111年 開校記念日10月20日 勤務時間 8:10~16:55 休憩 12:45~13:30										校長														1		
2	643900	田殿小学校																										県充指
3	644000	御霊小学校	10		2	12					12	1	1	13	2													1
4	644100	上六川小学校	2		1	3					3	1	7名		3													4
5	644200	石垣小学校	6		1	31名 2年生 27名 3年生 34名 4年生 52名 5年生 33名 6年生 46名 計223名					7	1	1	7												1	10	
6	644300	修理川小学校	2		1	3					3	1	98名		3													4
7	644400	鳥屋城小学校	8		1	3					9	1	1	10	2													14
8	646100	小川小学校	6		1	7					7	1	1	7														10
9	644500	五西月小学校	3		1	3					1	1	3															5
10	644600	西ヶ峯小学校	3		1	3					1	1	3															5
11	645200	栗生小学校	3	1		4					4	1	1	4														6
12	645400	城山西小学校	3		1	2					2	1	1	2														5
13	645800	楠本小学校	3		1	3					3	1	1	3														5
14	645600	八幡小学校	6		1	6					6	1	1	6														9
15	645900	久野原小学校	3		1	4					4	1	1	4														6
																												学びの丘研修員 補充
																												拠点校指導員

データを集約し事務の効率化

下記の事例 2 表は、教育委員会の年間事務計画や行事予定表などを取りまとめたもので、職員が共有し学校への問い合わせや照会を減らすようにしたものである。また、調査等の年間計画を立て、見直したり効率よくするようにしている。

	校 名	開校記念日	1学期終業式	環境整備作業	運動会・体育祭	2学期始業式	2学期終業式	3学期始業式	3学期終業式
1	藤並小学校	9月1日	7月31日	8月23日(予定)	5月31日(日)	9月2日	12月24日	1月8日	3月24日
2	田殿小学校	10月21日	7月31日		5月31日(日)	9月1日	12月24日	1月8日	3月24日
3	御堂小学校	10月20日	7月31日	(6月14日)	10月4日(日)	9月1日	12月24日	1月8日	3月24日
4	上六川小学校	6月10日	7月17日	8月23日	10月4日(日)	8月25日	12月24日	1月8日	3月24日
5	石垣小学校	11月15日	7月24日	8月23日	9月26日(土)	8月31日	12月24日	1月8日	3月24日
16	安謐小学校	11月10日	7月23日	8月22日	10月3日(土)	8月28日	12月24日	1月8日	3月24日
17	吉備中学校	6月25日	7月17日		9月19日(土)	8月25日	12月24日	1月8日	3月24日
18	石垣中学校	5月23日	7月17日		9月19日(土)	8月24日	12月24日	1月8日	3月24日
19	金屋中学校	10月1日	7月17日		9月12日(土)	8月24日	12月24日	1月7日	3月24日
20	白馬中学校	5月20日	7月17日	8月23日	9月19日(土)	8月25日	12月24日	1月8日	3月24日
21	八幡中学校	5月10日	7月17日	8月23日	9月13日(日)	8月25日	12月24日	1月8日	3月24日

教育委員会			藤並・田殿・御霊・中央保育所	藤並小学校	田殿小学校
月	日	曜	行事	行事	行事
7	1	水	子どもを守る日・通学路セーフティネットの日 (県)教育長会 御霊小授業研 楠本小授業研 SSW研修(寝屋川市)	子どもを守る日 通学路セーフティネットの日	子どもを守る日 ネット 観劇(14:00)
	2	木	八幡小学校訪問 (有)教頭研修	ふれあいボランティア(5・6限 6年)	F 初任 ⑩・教頭(きび館14:00)・養護 (文保13:30)
	3	金			参観 漢検
	4	土			少年少女SP
	5	日			
	6	月	金中学校区校長会		プール開き クラブ④
	7	火	白馬中授業研	七夕集会	育友会常任
	8	水	城山西小学校訪問		貯金・常任
	9	木	町村教育長研(那智勝浦町)	プール開きF	F・校長(県文13:30)

	指導・訪問関係	研修関係	人事関係	調査関係			校長会
			教員評価・学校評価 初任研	教育課程・学習、生徒指導関係	備品・教科用図書関係	給食・健康関係	
4月	・学校教育計画の精査 ・学校経営ビジング (教育活動に導く基盤計画を含む) ・(有)指定事業推進校評議員会の構思 ・学校紹介カード ・学校評価について ・研究指定校への指導(計画書の提出)	(有)学校教育研究担当委員会 (有)学校教育研究大会 4月18日(水) 於 金澤中学校 (県)第一指指導事担当委員会 (宇の丘)指導事担当委員会 (有)指導主事会 - 第1回教育委員会	- 初任指導教員(拠点校等)等協議会 - 初任研協議会基礎研修 - 初任研協議会校長会 10年研実践校長会 - 総教養教育課	・学校における普通教育の実施等に関する調査 ・転入・転出児童把握調査 ・児童行動調査票 ・1・8年度児童行動等調査(高井) ・スクールカウンセラー実況記録報告 ・式に関する調査 ・宇の丘の研修申請申込 ・指導等希望調査	・母親訪問(総合的な学習の時間の調査・事例発表報告(前期))	・教育委員会の指導方針について ・校長会役割分担、連絡網 ・学校関係関係図 ・調査・学校関係性(高井・近・尾) ・宇の丘の研修申請申込 ・生徒指導関係保護者研修(含む) ・学校予算、教育費助金関係 ・学校評価について ・人事関係 ・学校紹介カードやホームページ	
5月	・各教科等年間指導計画の精査 ・へき地教育推進指定校計画書の精査 ・地教委訪問の実施 ・就学指導 ・(県)地教委訪問 ・各学校への指導訪問(前期) ・発表会や研修会の計画 ・実地訪問(研究指定校)	(指)指導主事会 (有)指導員委員会	教員採用説明会	・学校の教育内容に関する調査 ・小学校教育改善取組調査 ・有教无学学校関係情報の調査 ・学校関係の協議 ・教育関係委員会参加者の決定 ・児童行動調査 ・スクールカウンセラー実況記録報告 ・有教无学報告に基く母親訪問申込	・児童の学習計画 ・学校施設関係調査 ・研究指定校一覽 ・給食・健康関係	・活用研修会進捗検査 ・学校訪問関係 ・研究指定校一覽 ・新スタートアップ ・各小に宇の丘のトネサンスの紹介 ・夏季教育推進促進協議会について ・地教委訪問について ・非常勤講師の職務について ・調紀真正について ・(市)推進事業に係る各学校の計画の紹介 ・発表会、研修会の計画	
6月	・各学校への指導訪問(前期)	(県)第一指指導主事指導委員会 (県)進路指導推進協議会 (県)人権教育研修会 (有)学校教育研究会 (有)指導主事会 - 高校入試説明会	・人事管理訪問	・児童行動調査 ・スクールカウンセラー実況記録報告	・給食関係調査要請書 ・給食施設現地調査	・人事管理訪問 ・教育委員会評定法認定講習 ・通知事項について ・前期指導訪問の日数 ・学習指導要領関係 ・総務文教委員会委員訪問について ・児童生活の総観管理について	



教育委員会

学校&教委ニュースで情報発進

1 趣旨

学校における取り組みは、保護者や地域の方に広く公開し、意見や評価を得ることが大事である。

また、学校間あるいは教育委員会、県教育委員会などにも発信し、理解積極的に得る必要がある。

そこで教育委員会では、学校から情報を集め、学校&教委ニュースという形で各方面に発信している。

【学校&教委ニュース】第28号 平成21年度版
有田川町教育委員会

久野原小学校・安藤小学校から届いたニュースを紹介します。

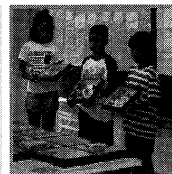
仁坂知事来校

～チョウを通じての交流～

仁坂知事が、久野原小学校を訪問されました。

地域の自然観察について研究をしている久野原小学校と安藤小学校の児童達が、知事や町長、教育長、地域の方々の前で研究発表を行いました。

久野原小学校児童は、61種類のチョウの標本と食



「チョウとめ」を使った。前や

標本を使いながら、説明しました。

両校の発表後、学校で作った標本を囲んで、子ども達や地域の方々と知事が交流しました。

標本の中の「むぎ」が、珍しい食餌のチョウであることも知事から教えていただきました。教室には大いに盛り上がりました。

最後に知事から、両校の資料を使いながら、チョウの分布と環境問題との関係や標本作りのコツなどを教えていただきました。

両校の長年にわたる取り組みへの賛賞の言葉を頂き、子ども達は大変うれしそうでした。



【学校&教委ニュース】第6号 平成21年度版
有田川町教育委員会

藤並小・御霊小から届いたニュースです。

みんなでチャレンジ、「米作り」!! ～地域の方に支えられた体験活動～

藤並小5年生(85名)は、待ちに待った「田植え」体験をしました。梅雨時期にもかかわらず、好天に恵まれ、みんなさわやかな汗を流しました。

初めは、「わあ、冷たい。」「何かヌルッとする」などと騒がしかったですが、泥田の感触に慣れてくると子どもたちは次第に集中して植え始め、きれいに苗がそろうようになってきました。



地域の方がみんなのために育てて下さった『苗』。これからは、自分たちの願いや思いも重なっていく苗なのです。みんなでしっかり見守り育てていきたいですね。

秋には立派に実り、収穫できるといいですね。

7つの約束、しっかり守ろう! ～湯浅警察署のご協力で防犯教室実施～

みんなで守る「7つの約束」

- ① グループで登下校しよう!
- ② 出かけるときはおうちの人に声をかけよう!
- ③ 人通りの多い道を歩こう!
- ④ 外ではひとりであそばないようにしよう!
- ⑤ 見知らぬ人の車にはぜったい乗らないようにしよう!
- ⑥ 危険なときは大声をだそう!
- ⑦ 近くの人や「きしゅう君の家」に助けを求めよう!

御霊小では、自分で自分を守る方法を身につけるために、湯浅警察署から4名の方を講師としてお迎えし、防犯教室を実施しました。

不審者に声をかけられた際の対応方法や、大きな声で助けを求める練習も行い、防犯(身を守る)ことへの心構えを学びました。

前半は、運動場で大きな声を出すことや、車の中に連れ込まれそうになったときの実技訓練をしました。

後半は、体育館で上記「7つの約束」

をしっかり教えていただきました。

学校の登下校時や昼休み中、今日教えていただいたことを守って安全に過ごしましょう。



2 成果

学校と教育委員会との間でも情報が密になっていない場合があったが画像と簡単な文章で送信されたものを教育委員会でまとめ配信することにより、管内の学校間の交流も促進されてきた。

また、関係機関への配布することにより、学校教育への理解が進んでいる。



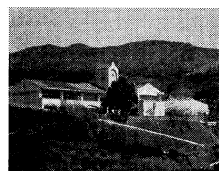
教育委員会

A4用紙1枚に集約し効率化

1 趣旨

学校訪問や関係機関との会議などにおいて各種資料が配付される。また、冊子や報告書は、様々なところから大量に送られてきている。その全てに目を通すことは困難な状況にあり、ユーザーのニーズに合っていない場合も多いのではないかとと思われる。

そこで、できる限りA4用紙1枚に情報をまとめ、学校としての考えをわかり易く見やすくしていこうという取り組みを進めている。



有田川町立西ヶ峯小学校

創立 133年 開校記念日 11月25日

住所 有田川町西ヶ峯1489
TEL 0737-34-2038
FAX 0737-34-2352
E-mail nishimine@naxnet.or.jp
金屋庁舎より車で10分で天空の城へ

～学校教育目標～

『自ら学び、心豊かでたくましく生きる子どもの育成』

◇自ら学ぶ子 ◇思いやりのある子 ◇たくましい子

1 沿革

主な行事

1876年(明治9) 西ヶ峯小学校創立
1886年(明治19) 西ヶ峯尋常小学校と改称
1941年(昭和16) 西ヶ峯国民学校と改称
1943年(昭和18) 有田川町立西ヶ峯小学校と改称

2

4/28 授業参観・育友会総会
4/30 遠足
6/25 プール開き
7/2 授業参観・講演会
8/27・28 全校合宿
9/27 運動会
10/16 社会見学
11/10 授業参観・講演会
12/4 収穫祭
1/31 学習発表会

1・2年担任	嶋山 恵美
4年担任	川島 孝義
5・6年担任	出谷 正人
A・L・T	リスク・マッシュー(マツ)
校務員	山本 恭子

年 0名	5年 2名	保護者実数
年 4名	6年 7名	11名
年 4名	5・6年学級(複式) 8名	3学級19名

に考えている。「手つなぎの精神」とは、自分のよさや支のよさに気付き、
であると考えている。一歩ひとりが持っている宝珠を発掘し、力いっぱい
学力をつけていく。また、身近にある自然とのかわりも「手つなぎ」で
を中心に身近な自然と共に生き(共生)、仲間と共に育つ(共育)ことを

本気・本物・本領発揮

有田川町立小川小学校

～市民性を育てる教育～

学校教育目標『豊かな心 確かな学び 健やかな体』

★市民性の育成のために・・・

- 豊かな心 「自分に自信を持ち、共生する態度」
- 確かな学び 「社会の一員として生きるための資質」
- 健やかな体 「一個人として生きる自立した心身」



小川小学校が考える市民性

「我々の世界を生きるため、まず我の世界を生き抜く力」

共生 同じ郷土に生まれたわたしたち、共に暮らす郷土の繁栄を願って

共育 家庭と地域と学校と手を取り合って、共に未来の宝を育てるために

共同 地域コミュニティ一丸となって、共に活動、目標はひとつ

【地域共育コミュニティ → 緑いっぱい推進事業・環境整備】

【おかげさま がすてて わをひろげる…『おがわっ子』】

- ・御かげさま (友誼のおかげ 家族のおかげ、地域のおかげ)
- ・我をすてて (わがまましない ねばり強く おてつだい)
- ・和をひろげる (ふれあい やさしく 助け合い)



教育課程	低 学 年	中 学 年	高 学 年
国語	はつきり話す	自分の思いを伝える	お互いの思いを伝えあう
スピーチ	相手を見て聞く	相手の考えを聞く	相手の考えを受け入れる
生活科	地域を知る	地域を学ぶ・地域で学ぶ	地域を生かして学ぶ・地域のひとと
総合	自然と生き物	環境を守る	もに学ぶ・環境を考える
道徳	生命尊重 公徳心 郷土愛	公徳心 生命尊重 郷土愛	郷土愛 生命尊重 公徳心
特別活動	校区で育つ活動・清掃ボラ ンティア・自立活動	校区での実践活動 清掃ボランティア	地域の活動への参加・清掃ボラン ティア・児童会活動の募金活動
学校創意 (人権)	幼児(保育園児)や 高齢者とのふれあい	地域講師や中山間事業者と のふれあい活動	地域講師や公民館関係者、社会福祉 協議会関係者とのふれあい活動

※ 植樹祭・もちつき・各コンサート・・・(地域コミュニティの活性化・環境美化活動)

※ 芝生の運動場・・・『緑いっぱい小川っ子推進事業』学校・PTA・地域一三位一体

※ 早月谷川の清流化・・・空き缶収集、川そうじ(地域コミュニティの活性化・環境美化活動)

※ アルミ缶集め(総合的な学習・地域の協力・一般の協力 → 地域コミュニティの活性化)

2 成果

学校要覧や市民性を育てる教育等の例のようにA4用紙1枚に集約することにより、学校としての考えを整理したり、表現したりする力が向上してきている。

また、写真や図を入れることにより、見やすく興味を引くものとなってきている。



教育委員会 学園構想による校種間連携

1 趣旨

有田川町では、これまで「中学校区一貫教育」ということを掲げ、各中学校区ごとに特色のある教育の創造に取り組んで来たが、それを更に発展させるかたちで、本年度より「学園構想」をスタートさせた。

これは、0～15歳の一貫した養育や育成、指導を目指した取り組みで、行政的な組織の違いを超え、保育所や学童保育と小中学校が連携を深めるシステムである。

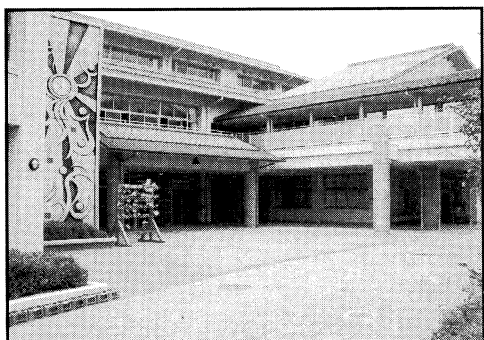
具体的には、学園長（中学校長）と外部の理事長が中心となって、会議や研修、行事等を企画運営するなどし、ソフト面を中心にした交流を推進するもので、学習面や生活面での一貫した指導方針を策定し、学校だけでなく保護者や地域とともに子どもの教育に取り組む、基本的な「まとまり」と考えている。

2 成果

- 5学園（構想図）を設定し、それぞれの特色を生かした取り組みをスタートすることができた。
- 保育所・小中学校合同の研修会や講演会、視察などを実施することができ、関係が深まってきている。また、段取りや運営、講師料等を分担して開催するので、時間や予算の軽減になった。
- 保護者に対し各発達年齢に応じた話を一貫性をもってすることができるようになったり、家庭教育で大事なことについて全体で取り組めるようになってきた。
- 小規模校では、体育や音楽、行事など合同で実施する機会が増え児童のやる気につながった。
- 学園内で情報の交換や伝達が積極的になり、意思疎通が早くなってきた。



研究協力校



藤並小学校 創立123年

住 所 有田川町天満439-1 E-mail fujinami@naxnet.or.jp
TEL 52-2069 FAX 52-4491

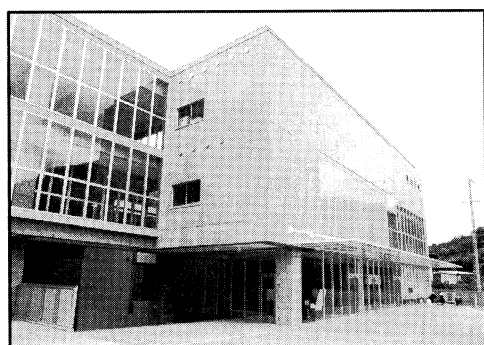
学校教育目標

「豊かな感性をもつ子、意欲的に取り組む子、たくましく生きる子を育てる」

学校研究主題

「学びあい、高めあう授業の創造」 一発問の工夫を通して一教職員のキーワード

「**着実な一歩**」



田殿小学校 創立134年

住 所 有田川町井口47-1 E-mail tadono@gold.ocn.or.jp
TEL 52-2026 FAX 52-3873

学校教育目標

「愛の心を育てる」

学校研究主題

「学力・体力の向上を目指す教育実践の充実」

教職員のキーワード

「**ヘッドワーク・フットワーク・チームワーク**」



御霊小学校 創立112年

住 所 有田川町庄30-1 E-mail goryo@gold.ocn.or.jp
TEL 52-3649 FAX 52-4103

学校教育目標

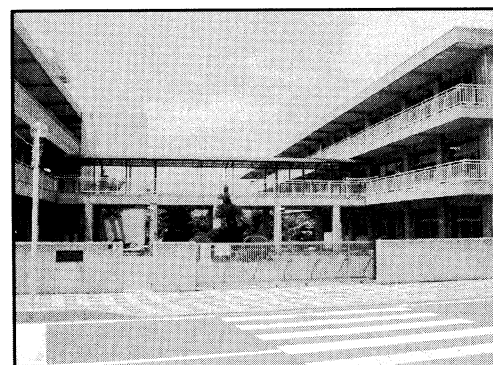
「知・徳・体の調和のとれた子どもの育成」

学校研究主題

「学ぶ意欲と力を育てる」

教職員のキーワード

「**simple・speed・challenge**」



吉備中学校 創立62年

住 所 有田川町下津野1241-3 E-mail kibi-jhs@naxnet.or.jp
TEL 52-2059 FAX 52-4955

学校教育目標

「たくましく生きる力の育成」

学校研究主題

「自己教育力の育成」

教職員のキーワード

「**vsop**」

バイタリティ・スペシャリティ・オリジナリティ・パーソナリティ

藤並小学校

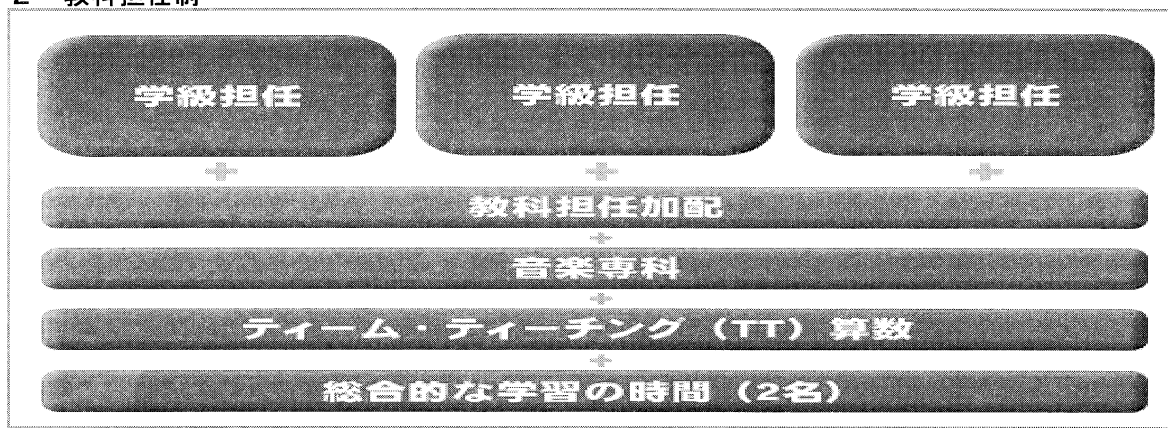
システム改革で時間の創出

1 趣旨

子ども達は小学校の高学年の時期になると、精神的にも肉体的にも成長期を迎え、友達関係だけでなく大人との関係も含め多感な時期となる。特に6年生は、卒業が間近になり、中学校との関係も考慮に入れなければならない。

そこで、本校では6年生において教科担任制を導入している。

2 教科担任制



3 効果

教員から見た教科担任制の効果

①教材研究の充実

学年3クラスの教科を担当することにより学力や評価についての責任が高まり、教材研究や事前の準備に対し積極的になる。

②授業の工夫改善

同じ指導内容を3回授業として実施することにより、課題が明確になる。

③学年としての意識が向上

学年全体に関わるので、教員同士の連携や協力がすすむ。

④授業のない時間（いわゆる空き時間）を確保

教科担任制の導入により、教員の持ち時数が軽減され、時間的なゆとりが確保できる。

4 参考

子どもの声

教科担任制	
メリット	デメリット
・多くの先生と関わるできるので楽しい。 ・集中力が高まり、気持ちの切り替えができる。 ・専門の先生だから授業が分かりやすく質問しやすい。 ・中学校のようである気になる。	・宿題が増えた。 ・先生によって進むペースが違うので自分のペースが崩れる時がある。 ・苦手な先生がいる。 ・質問するとき先生を探さなければならないときがある。
6年生児童全体の約90%が、教科担任制がよいと答えている。	



田殿小学校

快適空間で意欲の向上

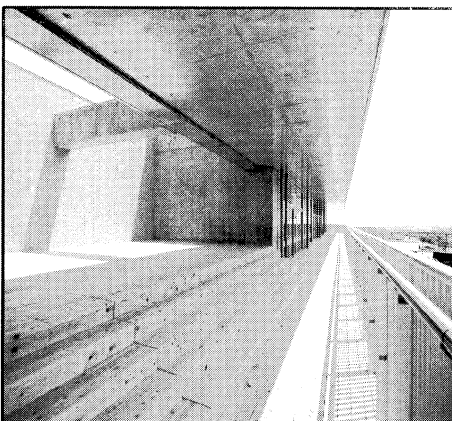
先進的な校舎



明るい図書室



自由に遊べるデッキ



1 趣旨

子どもたちや教職員の意欲を高めるためには、ソフト面の充実のもとより、ハード面の充実が大きな意味をもつといえる。かつて学校には最先端のものが揃っているといわれていたが、今は各家庭の方がきれいでものが揃っていると言われていることから、施設の充実は重要な課題である。

教育委員会としては、施設設備の充実を図ることが学校マネジメントを推進する上で非常に大事であると考え、各学校の充実を図っている。

2 拠点としての学校

校舎は、明るく開放的で地域住民の心の拠り所として、また有田川町の教育レベルを向上させる拠点となることを目指して建てている。

子どもたちや教職員の希望を取り入れ、使い勝手がよく愛着と誇りが持てるように考えられている。また、木のぬくもりのある空間や太陽光発電など環境問題に応える学校施設となっている。

3 効果

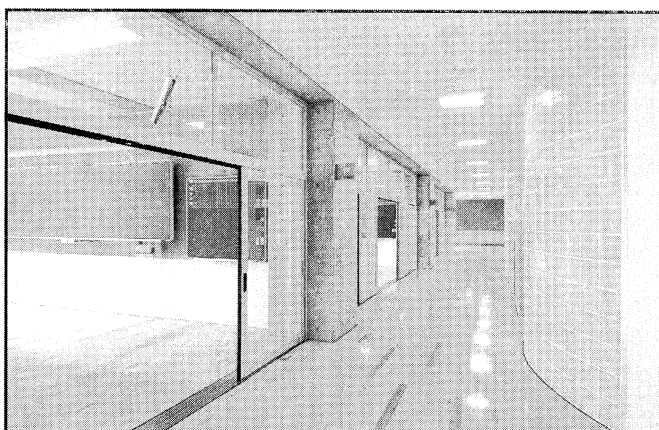
①子どもたちは、学校に愛着を持ち、充実した施設の中で豊に育っている。また、不登校の問題もなく、落ち着いた雰囲気となっている。

②図書の充実により読書をする子どもが増加している。

③空調の設置により、授業と休み時間の切り替えができるようになった。保健室へ行く子どもが減少し、給食の残飯が激減している。

④教職員の意識や意欲が向上している。

オープンな教室





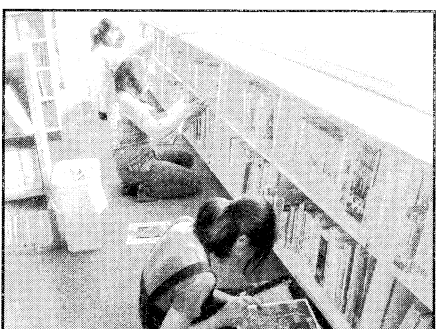
御霊小学校

教育奨励金による教育内容の充実



1 趣旨

本校では、教育活動奨励金を活用し、様々な分野の専門家やボランティアを活用し、指導の充実を図っている。教育活動奨励金とは、使途を限定しない予算で学校長を中心として、学校の現状や課題をもとに運用の方向を決める予算のことで、毎年教育委員会から配当されている。学校裁量の予算で学校長のマネジメントが問われるものといえる。



2 外部人材活用

本校では、音楽科やクラブ活動で琴の先生に指導を受け、和楽器に取り組んでいる。また、書道や読書、図書、パソコン、熱帯魚の管理など様々な分野で外部の専門家を招聘し、子ども達の指導に協力頂いている。教員が全体の指導や運営を行い、ポイントの指導に外部人材の方が専門性を発揮する形をとり、指導の充実や活動の活性化を図っている。



3 効果

外部人材の招聘は単発的なものではなく、年間を通して計画的に実施できるので講師との関係ができたり教員との連携が深まったりできている。学校に裁量権があると子どもの現実にあった遣い方ができるとともに学校のマネジメントが発揮できるといえる。

4 参考

子どもの声

子ども達は、外部の人や専門的な技術との出会いを通して、興味や関心が高まり積極的な学習や活動となっている。



吉備中学校

授業研究の工夫で活性化

1 趣旨

中学校における授業研究の課題として、教科の専門性が高く全職員による協議が深まりにくいということがあげられる。また、学級数が多い本校では、研究授業や研究協議の時間設定自体が困難となり、クラブ指導の大事な時間である放課後に会議をあてるわけにもいかないのが現状である。

そこで、本校では、ミニ授業研を実施し工夫改善に取り組んでいる。

2 ミニ授業研

●実施時期

春期 1 週間（6 月）と秋期 1 週間（9 月）の 2 回実施している。

●実施方法

研究授業は、各週間に 15 時間程度設定し、職員はどの授業を参観してもよい。また、参観の時間は、各職員の可能な時間帯で計画し参加している。

●実施内容

指導案は様式が統一されており、授業者はあらかじめ全職員に公開しておくというルールになっている。また、参観者はコメント表を提出するようになっており、研究協議は各教科ごとに設定するが、参観者の参加は自由となっている。

●まとめ

コメント表や協議の結果は、全職員に報告書というかたちで配布している。

3 効果

ミニ授業研の効果

①全員が参加

参観時間に制約がないので多くの授業を参観することができる。また、導入や終末だけでも参考になることがある。

②コメント表でフィードバック

研究協議に参加しなくてもコメント表で交流ができる。

③授業力の向上

各教科や道徳、食育など様々な授業を参観できるので授業力向上の機会となる。





再生紙と環境に優しい大豆インキを使用しています